

2025年5月4日（日）第二礼拝「聖書的セルフイメージ」Ⅱコリント5章17節

韓国の人は鶏肉よりキジ肉が好きで、キジは多く飼育されています。キジは目元にキャップがつけられているため空を見られず、飛ぶことができません。そして、目の前にあるエサ(下)だけを見ます。同様に、私たちの目はサタンによってキャップをつけられて、天(神様)を見ることができず、肉の欲、目の欲、この世の暮らしむきのことだけを考えて生きるように、間違ったセルフイメージを持たされました。しかし、イエス様は十字架を通してこのキャップを壊してくださり、私たちに聖霊の新しい目を与えてくださいました。

第一番目、誰でもイエス様の中にある者は新しくつくられた者です。人間は、神様がちりで形造り、その鼻に息(神の霊)を吹き込まれ、生き者(神様を礼拝する者)となりました。サタンにつけられたキャップ(古いセルフイメージ)により神様から遠ざかり、肉の欲に生きる者になりましたが、聖霊様により再び、主が創造された時と同じ姿に、新しくつくられた者(神様を見上げ、賛美し、礼拝する者)に変えられたのです。そして、私たちは奴隷の霊ではなく、子としてくださる御霊を受けて、天の神様を「アバ、父」と呼ぶことのできる者とされ、神様と交わることができ、主の祈りができるのです。これが新しい目線です。

第二番目、聖書的セルフイメージを日々口ずさむことです。聖書的セルフイメージが私たちの内で完成するまで、御言葉を絶えず口ずさむことが大切です。口ずさむは、ヘブル語で「ハガー(深く考える)」「シハー(暗記する)」です。食物を反芻する牛のように、御言葉が私たちの意識に刻まれるまで繰り返し考え、暗記し、味わうことです。口ずさむは英語で meditation(瞑想)、その派生語は medicine(薬)です。御言葉を口ずさむ時、癒されます。

また、御言葉を自分に適用することが大切です。私たちはイエス様と共に十字架につけられ、共によみがえり、天のところに座らせて頂き、永遠のいのちを与えられました。私たちは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。信仰によって御言葉を自分に適用しましょう。私たちは大祭司のように「主への聖なるもの」と書かれたかぶり物をかぶり、六部族ずつの名が刻まれた肩当てをつけ、十二部族の宝石のついた胸当てをつけ、ウリムとトンミムを持ち(主の志を聞き)、青服のすそには金の鈴をつけ(主と共に歩み)、一つの宝石を握り(一人の人、一つの国を覚え)、神と人の間に立ち、とりなす者です。

第三番目、宣言です。否定的な言葉ではなく、信仰的な言葉を宣言することが大切です。「…あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ10:9) アブラムが九十九歳、サライが八十九歳の時に神様が現れ、名前をアブラム(尊い父)からアブラハム(多くの国民の父)へ、サライ(尊い母)からサラ(多くの民族の母)へと変えられました。その一年後、子どものいなかった彼らに子どもが与えました。神様に不可能はありません。少年ダビデは御言葉を宣言することで3m以上のゴリアテを打ち倒しました。全能者が共におられたからです。私たちもまた、御言葉を宣言する時、御言葉通りになると信じます。アーメン！